



☐	社会人
☐	学生
☐	高専
☐	高体連
☐	中体連
☐	小学生

☐	全国大会
☐	ブロック大会
☐	都道府県大会
☐	地区大会

☐	男子
☐	女子

試合
番号

S2

年月日 2026 年 8 月 20 日 (木)

大会名 第55回全国中学校ハンドボール大会

公 式 記 録 用 紙

A	氷見市立西條中学校										G H R										B
都道府県 岡山県		市町村 総社市		会場 きびじアリーナ				回戦 決勝													
前半	A 13	B 17	最終 結果	A 24	B 33	第1 延長			第2 延長			7mシュ- ットテスト	A	B							
7m得点/総数		A 1/1	チームタイムアウト						チームタイムアウト			B 0/1	7m得点/総数								
		1 17:54	2 前 8:23	後 3				1 4:49	2 前 21:17	後 3											

No.	西條中	G	W	2'	D	DR	No.	G H R	G	W	2'	D	DR
1 ○	大森 桐真						1	木下 友翔					
2	海津 大志郎	5					2	佐々木 楓斗	7 8				
3	林 拓未						3 ○	矢澤 怜蒼	8				
4	銅子 隼汰						4	酒井 陽絆	7 6				
5	山崎 輝良						5	岡部 瑛太	2				
6	坂下 諒太	1					6	神戸 陽斗	5				
7	濱下 廉	5					7	齋藤 暖真					
9	川上 來士						8	石井 桃李					
10	前田 哲将	6					9	林 亜虎	3				
11	神埜 新大						10	野口 憂音	1				
12	山崎 莉輝						11	宇佐美 結徠					
13	佐藤 杜城	1					12	佐藤 大翔					
14	岩村 蒼天						13	齋藤 遥希					
15	本川 洸太	6					14	柳澤 大翔					
16	瀬戸 健太						16	山下 琥怜羽					
A	西森 友和						A	松井 翼					
B	山本 幹雄						B	堀口 聖平					
C	石野 実加子						C	田淵 元雄					
								王藤 諒賀					

A	西森 友和	チーム役員A署名	松井 翼	B

レフェリー

奥野 晃宇

小川 拓海

TD

星野 真也

田中 智博

MO

本田 隆

得点(G),警告 (W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR)特記事項に報告書として内容を記入

令和8年度全国中学校体育大会 第55回全国中学校ハンドボール大会

男子 決勝

令和8年8月20日(木)

於:きびじアリーナ

A 氷見市立西條中学校(富山)

対

B GHR(群馬)

24	13	前半	17	33
	11	後半	16	

栄光をかけて戦う男子決勝戦は、氷見市立西條中学校と、GHRとの一戦となった。先制は西條15番本川。キレのあるカットインで一気に間を割り、そのままシュートを沈めた。しかしGHRもすぐさま6番神戸がサイドシュートを決めて同点。序盤から一步も譲らない立ち上がりとなった。

その後は両チームともよく足を使い、間を割らせない硬いDFで応酬する時間が続く。膠着した局面をこじ開けたのは、またも西條15番本川。一瞬の隙を見逃さないステップシュートで2-1と勝ち越した。さらに西條はGK16番瀬戸がスーパーセーブ。守りから生まれた勢いに乗り、10番前田が3連続得点。5-1と一気に突き放した。

流れを引き戻したのはGHRのGK1番木下だった。相手の決定機を止めると、そこから2番佐々木、4番酒井、9番林が立て続けにゴールを陥れ、点差はみるみる縮まる。以降は互いに譲らない拮抗した展開が続いた。そして再び試合を動かしたのもGHR木下。体を張ったセーブでチームに火をつけると、勢いづいたGHRが6点連続得点。一気に主導権を奪い返し、4点のリードを持って前半を折り返した。

後半はGHR2番佐々木の2連続得点で幕を開ける。さらに4番酒井、6番神戸も続き、序盤から突き放しにかかった。

流れを変えたい西條は7人攻撃を選択。GKを上げてコートに人数をかけ、多彩な攻撃展開から2番海津、10番前田、7番濱下が得点を重ねていく。しかしGHRは崩れない。硬いDFで相手のリズムを断ち切ると、そこから確実に攻撃を組み立て、5番岡部、3番矢澤がゴールを陥れる。西條が追いつくたびに突き放し、29-21と点差を再び広げた。

後半21分、GHRがタイムアウト。何としても点差を縮めたい西條は、ここでマンツーマンDFに切り替え、全面から強いプレッシャーをかける勝負手に出る。だが、そこに立ち塞がったのが再び木下だった。ここぞという場面で好セーブを連発し、西條に勢いを渡さない。さらにGHRは最後まで足を止めなかった。マンツーマンで前に出てくる相手の背後の隙を的確に突き、着実に加点していく。

最後は33-24。試合を通じて、流れが傾きかけるたびにゴール前で立ちはだかったのは1番木下だった。守護神を軸に攻守で上回ったGHRが、栄光を勝ち取った。